

S.net グループ 受験情報通信

～ 第4回 ～ 2017年度埼玉県公立入試 今年の入試総括（理科・社会編）

教科	今年の入試の特徴	難易度（昨年との比較）	その他、注目点
理科	試験時間が10分延びたが設問数は減。記述問題は計算過程を書かせる問題と原理を論理的に説明する問題を出題。	記述以外は典型題中心の出題だったため、全体的に解きやすくなった。	「すべて選ぶ」記号問題を3問出題。より正確な知識が問われるようになった。「知識」＋「論理的な説明」が求められる入試のため、記述対策が必須。（生物関係の一問多答に要注意。）
社会	記述問題が増えたため（36点分出題）総設問数は微増。問題構成や出題形式は例年通りで変化なし。	特に大きな変化なし。	例年、高難度の問題を出題していた「歴史」の記述問題は典型題の出題にとどまった。地理や公民の記述も頻出のものが多く、解きやすいものだった。

☆これから受験する皆さんへのアドバイス☆

◎理科は、試験問題は基礎的な問題が中心になるが、正確な知識が求められる。（しっかり覚えることが重要）

また、記述問題は、「原理原則に関する正確な知識を持っているか問う問題」や「考え方を説明する問題」が出題。「すべて選ぶ」という記号問題は問題量増加の可能性大のため、要注意です。

◎社会は、一問一答のような用語を書く問題・記述問題ともに、基礎的な問題が中心の出題になっている。また地理は「資料の読み取り」、公民は「政治・経済の知識確認」が記述問題の定番。歴史の記述問題は難問から基礎的な問題に変化する可能性があります。しかし、歴史の出来事の並べかえ問題、正誤を問う問題は例年通りレベルが高くなっています。

◎理科と社会で共通して言えることは、しっかりと「知識をもつこと」とそれを自分で説明できる「説明力」を身に付けることが何よりも必要になっています。

以上

（作成情報協力：(株)エデュケーショナルネットワーク）

次回 最終回は「出題傾向のおさらいと2018年度入試に向けて」。